時事新報代金の早達便

本社は時事新報代金送達の便を謀り内國通運會社と特約を結びたるに就き左記の地方より御拂入れの新報代金は同會社の貨幣早達便ぇ御依托相成候得ば特別ぇ左表の運賃より二割を引き且つ無配達賃にて送達可致候現行の郵便小爲替法にては三圓以下の金員を送達するに爲替料三錢郵劵料二錢、書留料六錢都合十一錢を要する事なれ共今此の貨幣早達便ぇ依れば五圓以下は只四錢の運賃のゝにて送達し若し送金通知書を發する場合には右の運賃に端書一葉の代金一錢を加へ悉皆の費用五錢にて事足るべきに付新報代價の拂入には最も便利なる法と存候

時事新報社

内國通運會社貨幣早達便取扱箇所（追々箇所増設の筈）

東京佐内町 尾張名古屋 上野前橋 信濃上田 陸前仙臺 渡嶋函館 讃岐丸龜 下野足利 相模藤澤 武藏横濱
尾張熱田 下野宇都宮 信濃長野 岩代郡山 陸中盛岡 近江大津 備前岡山 筑前博多 長門赤間關 相模小田原
駿河靜岡 甲斐甲府 遠江掛川 三河岡崎 攝津大坂 加賀金澤 下野栃木 常陸水戸 岩代福嶋 越後新潟
陸奥青森 越前敦賀 山城京都 上野高崎 下總千葉 岩代若松 越後直江津 羽前山形 羽後秋田 石狩札幌 美濃岐阜

内國通運會社貨幣早達便運賃表

（時事新報代金は此表より二割引を以て送達すべし）

屆金高	遠近ぇ拘わらず運賃
五圓未滿	金五錢
同 十圓迄	同 七錢
同 十五圓迄	同 十錢
同 二十圓迄	同 十三錢
同 廿五圓迄	同 十六錢
同 五十圓迄	同 二十錢

又此早達便ぇ托したる金員不着の節は内國通運會社之を辨償して送出人に損毛を掛けざる定めなり

時事新報

風俗改良

改良の論一たび出でゝより世の文明に熱する輩は在來の一事一物を見るぇ付け恰も其弊を厭ふの情ぇ堪へざるものゝ如く先を爭ひて思を想像界ぇ馳せ種々樣々ぇ工風を替へて頻ぇ趣向を捏造し曰く既往現今の政治は文明の政道に反せり是れより云々の原則に從ひて其方針を一定すべし曰く我國の商賣は規模狹く秩序整はずして其運動甚だ活潑ならず西洋諸國の體裁に則るべし、農工の機械改めざる可らず、飮食衣服見るぇ堪へずとて蒲腔の妙案湧くが如く可とあく不可とあく改良の議論一時ぇ出現して遂には社會の風俗にまでも亦その鋒を差向くる者あるぇ至れり蓋し風俗とは人心の運動に外ならざれば之を改良せんとするは取りも直さず道德の標準を高めんとするの意味ぇして其事固より非難すべきぇ非ずと雖も改良の要點として唱ふる所を聞くに小說の卑猥なるは徒らに流俗を濁らしむるものなり、芝居の醜體慘狀は既に其度に過ぎて世の風教を害するに足るものなり、歌舞音曲の鄭衛ぇ近きは優美の心を養ふ所以にあらざれば此等の邊に向て改良を加ふるぇ最第一の急要なれ云々とて學者輩も往々相率ゐて爲めに奔走周旋の勞を辭せざるものゝ如し其勞は誠に苦勞なれども勞して果して功ある可きや我輩は容易に然りと答ふるを得ざる者なり今其次第を述べんに本來事物の價を評定して是れは高尚なり其れは下卑なりとするは其事其物の高下に由ると云はんよりは寧ろ之を取扱ふ人物の品格ぇよりて定まるものにして例へば彼の歌骨牌は古昔牧畜奴の戲にして雲助輩の持前に屬し百人一首の歌骨牌は紳士貴女の本色なりとて世間ぇ之を認むるもの多きが故に歌骨牌の本質は既に尊く樗蒲の品格は卑めより卑きが如くなれども今若し樗蒲を弄する者も貴人なれば之を見る者も貴人ぇして歌骨牌は都て民間下郎輩の樂むものとせば如何、尊卑の區別忽ち轉倒すべきは必然ぇして之を要するぇ樗蒲を續るの空氣と歌骨牌を圍むの空氣と互ぇ其淸濁雅俗を異にするの故にして即ち單にその外圍の事情如何ぇ由ると知るべし左れば樗蒲の卑賤なるを恐んで之を歌骨牌ぇ換ふるは事頗ぶる容易なる可けれども雲助を變して貴人となすは至難のとにして苟も其品格に變更なき限りは樗蒲と歌骨牌と更ぇ擇む所ある可らず故ぇ我國の芝居、歌舞、音曲等都ての演藝は未だ高尚優美ならずして往々少年子女の品行上にも影響し世敎に妨害を爲す者もある可けれども其害の生ずる所は技藝其物と云はんよりも寧ろ其邊ぇ充滿する空氣即ち技藝に關係する人物習慣ぇれを見物する客の人品行狀如何に在るものゝ如し苟も其人の品格にして高尚に進むときは技藝も亦共に誘はれて漸く地位を高め樗蒲變じて歌骨牌と爲る可きのゝ故ぇ世の德敎家にして風俗を改良し道德の標準を高めんとするの志あらば唯須らく實踐して自身の品行を正くし其德心を發達せしめて以て社會に實例を示し次第に一般の空氣を高尚ならしむべし斯て漸を追ひ其步を進むるときは淫褻卑猥の言句も殺伐慘酷の所作もいつしか徐々ぇ其跡を收め改良の實みゝぇ始めて擧るを得べしと雖も若しも然らずして徒に他の物的ぇ向て不滿を鳴し俄に新奇の趣向に思を凝らせばとて何とて能く其目的を達すべけんや凡そ事に本末あり其本を務めずして末ぇ走るものは常に失敗に陷るを免れず今の風俗の不完全なる其本は唯人心の程度低く私德品行の堅からざるが故ぇして身外物的の如何の如きは抑も末なりと云ふべし我輩は改良論者の本末を顚ぇずして無用の計畫に熱中する其熱心を一轉して躬て自家の道德を省みるに銳敏ならんとを望むものなり改良の論は易くして改良の實は易らず論者は果して自から省みて自家の私ぇ改良す可きものあるやなきや

雜報

○二年强に非ず二年弱ならん　一夜明けて明治二十二年の一月となれば新年を祝すると共に幾久しく待ちぇ待ちたる國會開設の近寄りたるを喜び指を屈して今一年經てばと云ふことならんなれども彌々開設の月日ぇして定まらざれば未だ左樣安心す可らざる可し若しも二十三年ぇ入りて國會の三四月頃までに開くるものならんには此先き凡そ一年餘なれども風說の如く十月ともなれば殆んど二年を餘すべき勘定ぇして一年經てばと云ふて千歲一遇の甚だ近きを喜ぶこと能はざるには非らずや帝國議會にて議論すべき箇條固より一ならざる可しと雖ども歲出歲入の豫算は其最も重大なるものならんなれば今日の會計年度にして異動なき間は府會縣會開場の例に從ひ議會も亦年の十、十一兩月なる可きを以て來年一月よりは猶は二年近き月日を待たざる可らざるゝとならんと云ふ

○所得稅額と議會議員の關係　帝國議會の議員として撰擧され得べきものは十五圓と云ひ二十五圓と云ひ其高は未だ確定せざれども何樣直稅を納むる日本人民に限るゝとなり直稅の種類甚だ多く國稅にて地租、所得、地方稅にて地租、戶數、家屋、營業及び雜種の諸割、區町村費ぇては地價、段別、戶別、家屋及び營業の諸割なれども右直稅十二項中の十一は土地建物或は營業の如き十目に見られ十手ぇ指されて其本の土地以下ぇ變りなき以上は本より續生すべき稅額を動かすべからざるに獨り所得稅は箇程嚴なるものぇも非ざるまゝ苟も納稅の高を進めんとすれば事甚だ容易かる可し所得稅法の中に「所得金高を隱蔽して逋稅したる者は其逋稅高ぇ三倍の罰金を課す」とあれども隱蔽せずして暴露し暴露して猶は其上の申出を行ふたる場合ぇは別に罰則もなく寧ろ賞與に預るべき傾向ある者なれば世の志士論客ぇして議員となりたき志はありながらも直稅何圓以上の一點ぇ至て資格に合せざるゝともあらんには何とかして所得稅額を增加の工風を考ふるならん若し直稅十五圓以上なれば年ぇ千圓の所得にして可なれども二十五圓以上ともならんには亦之に隨ひて所得の高を進めざる可らず其高を進むるぇは容易く又之を進むる分は法外に進めても差支なきは即ち所得稅あるを以て來年よりは所得稅額も大ぇ殖ゑて或は二百萬圓ぇも達し兼ねぬ事なる可し然るときは直稅の一點より議會議員の資格を引締むれば引締むるほど增し得べき程度までは國の歲入を增す勘定ならんとて所得稅評價の局ぇ當りたる或人の物語りき

○地方の名望家　我國會の組織を上下兩院に區別し其上院を貴族院と稱するやの噂は搀て諸新聞にも見えたるが右貴族院議員の定數は大抵下院と伯仲せしむる都合なりと云へば之に着席する人々は種々樣々なるべきも貴族及び國家に功勞ある者の外に又各府縣より凡そ二名の割合を以て地方の名望家を撰擧するとぇなるべしとの風說あり

○府廳建築費の決議　東京府廳は來る二十二年中に新築するに付ては去る廿四日常置委員會に於て其大體を決議したるよしなるが總費額は二十五萬圓にして內二十二萬六千餘圓は國庫金の補助を仰ぎ殘金は同廳敷地賣拂代金を以て支辨する都合なるよし

○後藤伯漫遊日錄（第八報）

二十一日　伯は終日其旅寓三秀園（越前福井）ぇ在りて遠近より來訪の有志者に接見し大に時事を談論し或は需に應じて揮毫を試み薄暮より福井の志士が催したる風月樓の懇親會ぇ臨み一場の演說をなしたり此日午後一時より伯の隨行員諸氏は福井の照手座に政談演說會を開きしに聽衆は無慮千有餘名の多きぇ達せり

二十二日　午前十時伯の一行は旅寓（三秀園）を出て腕車に乘じ加州山代（江沼郡ぇ在り）に向ひ行くと三里にして丸岡（越前坂井郡ぇ屬す）に着し一憩の後伯は同地の有志家數十名を會して暫く國家の大勢を論じて一々時弊を指摘せしより衆皆大ぇ感悟する處あるが如し是より一行は山林平蕪の間を行くぇと數里ぇして大聖寺ぇ達せしが此處ぇは山代より來迎の爲めとて出張せる志士十數名の一行を待受くるありて休憩數刻共に腕車を飛ばして午後四時山代の溫泉亭新屋ぇ投じ直に同地方の有志者が催せる懇親會に臨みしが會する者既に二百餘名、伯は拍手喝采の間に徐々時弊を指摘して目下の急務を切論し繼で綾井氏の演說を畢り後宴を開き主客十二分の歡を竭して退散したりそも山代の地たる山間の一小村市に過ぎずと雖ども氣風頗る健質樸ぇして頗る將來政治上の運動に與ゝわるが如し

○官報代價　官報の代價は從來一部三錢一ヶ月七十五錢の定めなりしが昨日內閣の訓令を以て之を改めたり訓令は本日の官報欄ぇ見ゆ

○合併替の請願　靜岡縣下遠江國豐田郡の內一貫池村

上神增村、瀬村と稱の三村は此して昨廿七

○海岸砲臺　の砲臺ぇ從數百萬圓を其費用を支運搬方は七本紙に掲げ程と約束せ圓を要す二線を造る

○大坂鐵道　大坂南區長は最初十二き豫定にを敷設たるも線路れとなりて即ち件一坪は二百二圓五十錢競爭より落札した中より取當の砂利り取るも人は大損に二千坪の工事落では汽車の線路中に今浜芳橋なり

○暦書販賣　りて神宮之を受け移りたる賣を引受き左樣は

○藍玉、　方の在方荷仕度にく又現在て變動な凡し商況ぇて一萬市迄は差にて一俵はず又當可なりの捌の有樣況ぇて相りといふ

○大坂の　ある運迫

十二月廿六日

近火御見舞御禮
芝區琴平町十三番地
私立女子敬愛學校

近火御見廻被成下難有御禮申上候
尾[illegible]

近火御禮
芝櫻田太左衛門町十一番地
水野三吉

第一回卒業生廣告
○○高龍輔
○○川村藤次郎
○○金子喜太郎
○○上野義重

和洋[illegible]
仕候
昨夜近火[illegible]